

【生薬名】 沢瀉 *ALISMATIS RHIZOMA*.

【起源植物】 サヅ 托ガカ *Alisma plantago-aquatica var. orientale*



【科名】 オモダカ科Alismataceae、

【別名】 水瀉・鵠瀉・及瀉・芒芋・禹孫

【薬用部分】 塊茎

【主成分】 トリテルペノイド (アリソール)、糖質、 β シトステロール、コリン、アミノ酸

【薬性】 気味は、帰経はに属す

【効能】 ●利尿・滲湿・清熱

●利尿作用、抗脂肪肝作用、コレステロール血症の改善、血液凝固抑制

●免疫賦活作用

●口渇、めまい、浮腫に、1日5～15gを煎服する

●水腫を去り利尿する目的では単独で使う事はなく殆どの場合、茯苓と共に用いられ猪苓や白朮を配合する事が多い

【出典】 ●主治小便不利冒眩也(薬徴)

●治風寒濕痺。乳難。消水。養五藏。益氣力。肥健。久服耳目聰明。不飢延年輕身。面生光。能行水上。(神農本草經上品)

●苦寒、腫を消し、渇を止め湿を除き、淋を通じ、陰汗自ら過く。(薬性歌)

●本草綱目の記載には沢水の瀉ぐが如き利尿滲湿の作用で湿熱証の薬で、小便を通利し脾胃の湿熱を去り、頭重、めまい、口渇などに使われる。熱感があり、口が渇いて水を欲しがり、小便少なく、頭がふらふらし、水様の下痢をするという五苓散証は沢瀉の薬効を示している。

【備考】 ●沢瀉の性は寒でよく熱を除く。味は甘淡であってよく湿を去る。

腎経の火を泄し、膀胱の熱を瀉す。それ故小便を通利せしめ、湿を去り熱を泄す薬物である

【処方例】 ●沢瀉湯、猪苓湯、五苓散、当帰芍薬散、八味地黄丸